



No.9 平成19年2月1日発行  
| 12月定例会

- 定例会の審議と結果 ..... 2
- 常任委員会の審査報告 ..... 4
- 一般質問 ..... 6
- 所管事務調査レポート ..... 12
- 請願・陳情、あとがき ..... 16

阿仁スキー場の樹氷



市議会  
だより

きたあきた

# 米内沢・阿仁スキー大会 クロカン中止 について

# 継続求め付帯意見

## 企業誘致特別委を設置

12月定例議会が12日から21日まで開かれ、一般会計と特別会計の補正予算12件、条例関係9件、17年度決算認定3件など計35件がいずれも原案通り可決・認定された。このうち秋田県後期高齢者医療広域連合の設置と17年度各会計歳入歳出決算の認定ならびに企業誘致調査特別委員会の設置に関する決議の3件は賛成多数で、ほかはいずれも全会一致での可決・認定であった。

一般会計補正予算は、3億1387万4000円を追加して総額を237億1109

万8000円とするもの。

主な歳入は前年度の繰越金。歳出は▽患者の自己負担増などにより患者数が減ったことによる減収を補てんする阿仁病院負担金5000万円▽遠距離通学者のために鷹巣南中と南小併用分、鷹巣中と綴子小併用分、計2台のマイクログバスを購入する費用815万円▽米内沢と阿仁でおこなわれる小・中学校スキー大会の補助金110万円▽財政調整基金積立金2億2657万4000円など。

大綱質疑では、小・中学校スキー大会補助金に関し、米内沢大会、阿仁大会ともクロカンを中止してアルペンのみ

問の声が上がり、市教育委員

会は「例年、雪不足でコースの設置に難儀している」「教師の負担が大きく、廃止は、学校側からのたつてのお願いであった」と答弁したが、これを審査した福祉教育常任委員からは「再度クロカンも実施すべき」との意見が付され方針の変更が求められた。

遠距離通学者用のスクールバス購入については「これですべて市内全域、バス通学に統一されるのか」との質疑に対し、市教委は統一となることを説明。今年度当初予算（3月議会）で森中スクールバス廃止案を示し論議をよんだこの問題は、基本的に市内全域でバス通学となることとなった。

### 後期高齢者医療は賛成多数で

平成20年4月から75才以上の一人だけの健康保険が新たに創設され、その保険者を県内25市町村の連合体とする『秋田県後期高齢者医療広域連合の設置』案については、意見が分かれ起立採決となった。

採決に先立ち、反対の立場から2人が「高齢者が新たな負担をさせられる」「病院にかかっても医療費の『定額制』導入で必要な医療が受けられなくなる」、賛成の立場から1人が「国保財政の安定化がはかられる」と討論をおこない、起立採決の結果、賛成多数で可決となった。

### 北と西を統合し たかのす幼稚園に

鷹巣北幼稚園と西幼稚園を統合し『たかのす幼稚園』とする案については議員から、「市民の同意を得ているか」



後期高齢者医療広域連合設置議案の採決



との質疑があったが、市教委は「説明会を3回おこなったが異論はまったくなかった」と説明した。

## 議会としても 企業誘致に努力

議会最終日に議員発議により「企業誘致調査特別委員会の設置に関する決議」が提案され、可決したのち即日設置された。

議員からは「委員会の必要経費が予算化されていない」などの異論も出されたが、起立採決の結果、賛成多数で可

決された。

同委員会は、地方自治法第110条にもとづくもので、目的は企業誘致のための要望活動および調査。委員は会派を考慮のうえ各常任委員会から2名づつ選出し、次の通り決定された。

- ◎中嶋 力蔵 (形成会)
  - 松尾 秀一 (新創会)
  - 鈴木 茂雄 (形成会)
  - 花田 隆一 (共産党)
  - 千葉 文吉 (千光会)
  - 松田 光朗 (無会派)
  - 湊屋 啓二 (新創会)
  - 金田 司 (公明正大)
- (◎)委員長、(○)副委員長

## どうする？ どうなる？

議会最終日の冒頭、市長が特別に発言を求め内陸縦貫鉄道の現状について報告しました。以下、その要旨をお知らせします。

◇ ◇  
先ごろ実施した内陸線の安全評価で、必要な修繕費は9億2200万円になることがわかった。県議会で寺田知事は『今後の県財政でどこまで耐えられるか。』

## 内陸線

毎年3億円の赤字が出る状況で公共交通機関として維持できるか率直に考えざるを得ない時期にきている』と発言した。修繕を実施するかどうかの判断は存廃と切り離せない。市としては必要な交通機関だが、9億2200万円の負担割合が決まり次第、みなさんたちにも相談して結論を出したい。

## 今定例会で審議された議案と結果

件名	審査結果	件名	審査結果
平成18年度北秋田市一般会計補正予算(第3号)	全会一致 原案可決	北秋田市大野台ハイランド体育館条例の一部を改正する条例の制定について	全会一致 原案可決
平成18年度北秋田市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	全会一致 原案可決	北秋田市阿仁花菖蒲園条例の一部を改正する条例の制定について	全会一致 原案可決
平成18年度北秋田市国民健康保険合川診療所特別会計補正予算(第4号)	全会一致 原案可決	北秋田市阿仁今日庵広場条例の一部を改正する条例の制定について	全会一致 原案可決
平成18年度北秋田市介護保険特別会計補正予算(第3号)	全会一致 原案可決	北秋田市移動通信用鉄塔施設条例の一部を改正する条例の制定について	全会一致 原案可決
平成18年度北秋田市簡易水道特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決	北秋田市移動通信用鉄塔施設整備事業分担金徴収条例の一部を改正する条例の制定について	全会一致 原案可決
平成18年度北秋田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決	北秋田市立幼稚園条例の一部を改正する条例の制定について	全会一致 原案可決
平成18年度北秋田市下水道事業特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決	秋田県市町村総合事務組合規約の一部を変更する規約について	全会一致 原案可決
平成18年度北秋田市七日市財産区特別会計補正予算(第1号)	全会一致 原案可決	秋田県市町村会館管理組合規約の一部を変更する規約について	全会一致 原案可決
平成18年度北秋田市米内沢財産区特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決	秋田県後期高齢者医療広域連合の設置について	起立多数 原案可決
平成18年度北秋田市前田財産区特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決	企業誘致調査特別委員会の設置に関する決議	起立多数 原案可決
平成18年度北秋田市病院事業会計補正予算(第3号)	全会一致 原案可決	人権擁護委員候補者の推薦について	全会一致 同意
平成18年度北秋田市水道事業会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決	平成17年度北秋田市各会計歳入歳出決算の認定について	起立多数 認定
平成18年度北秋田市簡易水道特別会計への繰入について	全会一致 原案可決	平成17年度北秋田市水道事業会計決算の認定について	全会一致 認定
北秋田市農業集落排水事業債償還基金条例の制定について	全会一致 原案可決	平成17年度北秋田市立阿仁病院事業会計決算の認定について	全会一致 認定
北秋田市障害者生活支援センター条例の制定について	全会一致 原案可決	各常任委員会及び議会運営委員会所管事務調査について	全会一致 原案可決
北秋田市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について	全会一致 原案可決	請願 1件 ・ 陳情 11件 ・ 意見書 7件	16ページ参照

総務企画

補正予算など  
全会一致で原案可決

付託案件は一般会計補正予算を含め8件でした。

補正予算の主なものは、平成17年度決算により純繰越金額が4億5314万7千円と確定、9月補正で2472万2千円、12月補正で3億3199万8千円を計上。その内、財政調整基金に2億2657万4千円を繰出すことにより基金総額は6億2909万2

千円となりました。退職手当組合負担金1449万9千円の増額は、定年退職者が18名、若年退職者が12名となることによるものであります。

秋田内陸線運営事業補助金は、平成17年度の赤字額2億9014万9331円と確定したことともない、内陸線基金から2014万9331

円を繰出。残りを県及び市、村で負担。当市の負担分は8046万円となり、当初予算計上より144万2千円の減少となりました。

携帯電話関連  
条例の一部を改正

北秋田市移動通信鉄塔施設条例及び、事業分担金徴収条例の一部を改正する条例については、地方単独事業の一つであり、携帯電話不感地帯解消支援事業で加入者見込みが200人以下が対象となります。今回は、阿仁打当地区及

び、戸島内地区の整備を目的とするもので電気通信事業者(KDDI、ドコモ)が整備費の8分の1を負担することを条例として整備することが必要となりました。

米内沢財産区特別会計について、土地、立売払収入合計で669万9千円、補償費で552万9千円を関係自治体へ交付し、残りを予備費として809万9千円を計上することであります。

(佐藤文信委員長)



▲ 着工した移動通信鉄塔施設工事

生活環境

後期高齢者医療で  
質疑集中

付託案件は議案5件であった。

高齢化が進むにつれ、老人医療費を中心に国民医療費が増大してきている。このような中から新しい高齢者医療制度が創設された。これは国民皆保険制度を将来にわたって維持可能なものにするため。

制度は、現在の老人保健制度から後期高齢者医療制度に

変えるものである。変更となるものは

- ① 今まで各市町村ごとに運営されていたものが県内25市町村合同の秋田県広域連合で運営されること。
  - ② 高齢者からの保険料1割負担があることなど。
- この制度は平成18年6月14日に国会決議され、18年度末までに広域連合を設置するこ

とになっています。

秋田県においても平成19年2月1日設置にむけ、県内25市町村で論議されているところだ。

広域連合運営としたのは、

- ① 財政の安定化を図る。
  - ② 統一した保健、医療の指導が可能となる。
  - ③ 医療費適正化事業に一体となつて取り組めるため。
- 審査にあたって委員からは秋田県一本で、市町村の高齢化率の差によって負担割合に矛盾が出てくるのでは。また医療費負担部分につい

ても心配だ。

② 保険料の一部負担について現在納付されている方はどうなるのか。などの質問が出され、当局からは、

- ① 共通経費の負担割合なので広域連合が赤字になるとか不満がでてくるというものではないと思う。医療費負担は、公費負担各市町村は10分の5、後期高齢者支援分、(国保、社保、共済など)10分の4ということになり高齢化率とは関係なく負担する。

② 75歳以上の保険料は年金から徴収される。などの答弁があった。

(佐藤重光委員長)



## 福祉教育

# 遠距離地区には スクールバス他で

付託案件は、議案5件であり、その内補正予算が2件、条例の一部改正案と条例制定の3件であった。

一般補正予算10款教育費スクールバス購入費に対して購入は入札か、旧町単位から見一地区だけがスクールバス対応となっていない、森中のスクールバスの今後の対応は、その他スクールバス以外の対

応方法もあるのか等の質疑がありました。

スクールバス2台を入札で購入、使用地区は綴子地区で綴子小と鷹中へ通学している児童生徒、向黒沢、大畑、二本杉方面へ対応、もう1台は鷹巣南中竜森寮平成19年度から廃止に伴ない同地区に対応するもの、増沢、金沢、美栄、桃栄等もスクールバスで対応

合川中に関しては部活動の終了時に合せてバス利用出来る時間帯で運行を秋北バスに要望しているとのこと。森中のスクールバス利用はこれまで通りの利用と併せ内陸線を利用している地区についてもバス利用で、その他の遠距離通学の鷹巣中央小学区と鷹巣東小学区内地区ではジャンボタクシーで対応する地区とに別れる。

小ヶ田地区と田沢、李岱方面、スクールバス、ジャンボタクシーの新規の開設時期はいずれも新年度から。

策事業、個別経営体育成対策事業、事業の実施手続き、市町村において担い手育成計画が策定されていること。

## 産業建設

# “あなたと地域の農業夢プラン” 模様替えに

付託案件は議案10件であった。

委員会審査で特に“夢プラン”の件について資料提出を求め、応援事業の概要説明を求めた。標記事業は県単事業である。

平成12年度～18年度まで、7年間を事業実施期間として、合併前から各市町村で実施してきました。しかし農協等による「リース方式」による事

業実施のため、税法上の問題が生じる可能性があるため、事業実施期間を1年短縮して、平成18年度から「目指せ元気な担い手」応援事業として、模様替えをおこない、事業実施主体が、認定農業者、農業法人、法人化を目指す集落営農組織等となりました。

期間平成18年度～20年度、事業内容、組織経営体育成対

## 記念誌等補助は 一千元以内

民生費の中で特に合川保育園の統合に合せて50周年記念誌作成に当って質疑が行われた。

事業費に対して予算額が低くなっているのでは、市で全額負担しても良いのでは。

追加補正が出来ないか、予算折衝、積算根拠は。

記念誌作成等に基準があるのか。合川、竜森各記念誌の単価、また各何冊かが審議があった。

実行委員会を組織され2回目に編集方法で当初は、3000円の要望が出される。

市でやるのであれば1冊1000円くらいまで、また補助金は事業費の3分の1ぐらい。

合川は単価は2730円500冊。竜森の200冊は雑入でみる。

(中嶋力蔵委員長)

事業形態、「リース方式」→「直接方式」。補助等県12分の4、市12分の1で現在と同率であります。なお、土地の賃借等継続事業等、一部は今年も“あなたと地域の農業夢プラン”事業として継続。

「直接方式」。補助等県12分の4、市12分の1で現在と同率であります。なお、土地の賃借等継続事業等、一部は今年も“あなたと地域の農業夢プラン”事業として継続。

## 蘭水「合川・森吉」取水調査 についてです

合川・森吉地区の給水が逼迫しているようだが、取水調

査をするといつ頃供給できる見通しか。また工業団地、新病院に水がないと大変では等の質疑があり、今の施設も更新を控えているので、ギリギリの状態、一年でも早く整備したい現状。今後、国、県と協議しながらできるだけ早く整備をしたい。そのための予算措置は、今後の調査を踏えて、ダム事業者、県治水の関係者と協議し、工事的な方法等検討しながら方向ができれば、来年度からその方向で進めたい等の答弁があった。

森吉山ダムと今回の給水調

査との関連について、森吉山ダムから供給できれば不要になるのかの質疑には、ダムからの取水方法は県、国で決めて継続されているが、別の方法にするとどうかも含めて検討する意味でもボーリング調査を行うもので、結果が出れば一番効率的な方法で整備したいと思っていると答弁した。

(武藤忠孝委員長)

# 一般質問

活かそう市民の声 市政を問う



一般質問は、12月14・15日の2日間行われ、10名の議員が市長に対して限られた時間の中で、様々な問題についてたどしました。

\*掲載文は、質問者の執筆による原稿を掲載しております。

**問** 北秋田市の観光を知ってもらうためのポスターやパンフレット、記事にしてもらうための新聞やテレビへの売り込み、また食、土産品、観光及び宿泊施設の充実度・安心、安全のための道路、駐車場、案内板の整備はどうか。

**答** 振興局と一緒に制作した「マタギの森へ」等のポスターや各種パンフレットも作っている。また市推奨認定特産品に45品目を認定し、振興局が音頭をとってくれた「うめもん創作」には24社参加で34出品があり、来年度以降は市主催でやる。安の滝に関しては駐車場が狭いと危険な所もあるので検討したい。



松尾 秀一 議員  
(新 創 会)

回 答 質 問

総合観光案内所設置は

春とともに設定したい

**問** 交通事情や観光コース、宿泊や観光施設、山のガイド、釣り情報、伝統行事やイベント等の情報案内や発

信のための総合観光案内所は観光を考えるうえで絶対必要と思うが考えは。

**答** 観光協会、商工会、振興局と打ち合わせの上、当初からでも春とともに設定したい。

医師看護師の確保は

開院までに確保予定

**問** 医師遍在の解決策として国、県でも奨学金制度創設を条件に大学の定員を増やしたり、奨学金制度の対象を大学院生や臨床専門研修員にまで拡大したり、医師確保対策室を設置した市もある。また、看護師対入院患者数1対10が1対7になり、高い報酬を設定したことから、都市部の大病院が看護師を大募集している。病院の成功するか否かは医師にかかっていると思う。このような状況の中で医師看護師の確保は大丈夫か。また厚生連との話し合いはしているのか。

**答** 最大の解決策は医師の確保、1人で年間2億の稼働が見込まれる。ギリギリの所まで努力したい。

**問** 米内沢病院の一般会計からの持ち出し見込みが18年度は4億2千万円、19年度は6億円になる由、まだ20年、21年度もある。このままでもいいのか、これからどうするのか。

**答** 1月の段階で医療審議

質問	回答
当初予算の編成方針は	交付税の減額で厳しい



議員 長崎 克彦 (千光会)

からは一般会計から6億円不良債務4億6500万円になると予想しています。休床、時間診療等で56人の職員が余剰になると説明しております。

しかも市長が経営の責任者です。まず、現存する病院のあり方、特に医師の充足は病院経営上不可欠と考えますがどうか。また、市民病院の医師確保は大丈夫と発言しながら、現存する市立病院の医師充足はなぜできないのか、その理由は医師不足は県内外問わず周知の事実です。地域医療を守るための大変重要な問題であります。

支比率、公債費はどうか変化するか。行政効果をあげる機構改革の考え方は。

【答】19年度はマイナス2.5%、交付税制度の変更にともない5000万円の減で、相当厳しくなる。

【問】19年度予算の編成方針と新規事業の重点施策について、特に話題になつてくる市民病院の建設で、一層予算が窮屈になつていると言われているがどうか。

【答】19年度はマイナス2.5%、交付税制度の変更にともない5000万円の減で、相当厳しくなる。經常収支比率は96.3%、公債費は2500万円増の32億円程度見込んでいます。厳しい財政運営になるので組織再編を中心に検討委員会で作業を進めている。

また、交付税の見直し、事業実施にともない經常収

## 市立病院の医師充足を

### 医療機能が十分でない

【問】市立阿仁病院、国保合川診療所の管理運営と、一部事務組合の米内沢病院の今後のあり方について。

阿仁は患者の減少と、60

床のベットに平均入院が22人で、一般会計からの持ち出しが不可欠です。

米内沢は、医師の数は17

年度13人、18年度11人から現在9人、19年度4月から5人になると想定しています。また、医師一人につき年間2億円の医業収益があると説明しております。医師の減少により病棟の休床、診療科の曜日、時間診療等へと変化しており、19年度

合川診療所は指定管理者の導入も視野に考えている。米内沢は職員、労組等と管理者との関係がうまくいっていない状況だ。また、医師不足を要約すると、十分な設備が無く、医療機能が果されていない。そのための設備を充足すれば、予算不足という現実問題がある。

## 財政健全化の取組みは

### 歳出削減を優先的に



議員 湊 啓二 (新創会)

料広告は考えているか。

【答】企業経営意識を持ち、行財政運営に取り組んでおり3月の集中改革、機構改革と合わせ歳出の削減を一番に、遊休市有地の有効活用、市税収納率の向上を推進する。有料広告事業は早速検討し、実行可能なものから取り組む。

【問】国の三位一体改革推進により厳しい財政状況と見受けられるが、企業経営的運営や財源確保のため税の収納率向上策、広報等の有

【問】将来地域活力の源となる子どもの誕生に祝い金を出すことは全市民が喜びを共有することと同義と考え再度出産祝金制度の制定について伺う。一層の子育て支援策の充実を望む。また、商店街空店舗の有効利用、賑い創出も兼ねて親が仕事帰りに迎えに来るまで安全で安心な子どもの居場所づくりを商店街に設置することを提案するが、当局の考えは。

## 商店街の振興策は

### 次年度から具体策実施

【問】地域商業振興の基盤を築くため市内3商工会の合併支援や消費者にとってメリットの大きいプレミアム付地域振興券事業への助成について具体の検討は。

【答】市内3商工会の合併については商工会業務の効率性を考え早急に推進すべきと考えられる。鷹巣町、合川町両商工会は20年4月合併予定であり市も支援する。阿仁

【問】鷹巣地区駅前、銀座通り商店街の振興策についてまた旧秋北バス営業所に設けられた「やるベシヨツプ」のトイレは老朽化が激しく、男女兼用で公衆衛生

【問】鷹巣地区駅前、銀座通り商店街の振興策についてまた旧秋北バス営業所に設けられた「やるベシヨツプ」のトイレは老朽化が激しく、男女兼用で公衆衛生

【問】鷹巣地区駅前、銀座通り商店街の振興策についてまた旧秋北バス営業所に設けられた「やるベシヨツプ」のトイレは老朽化が激しく、男女兼用で公衆衛生

【問】鷹巣地区駅前、銀座通り商店街の振興策についてまた旧秋北バス営業所に設けられた「やるベシヨツプ」のトイレは老朽化が激しく、男女兼用で公衆衛生

上、防犯対策上問題があり改善すべきと考えるが市の対応は。

【答】県のまちの賑いづくりモデル地域に選定され、推進委員会を組織し実行プランを策定中である。トイレについては調査し対処する。新市まちづくり計画の位置付けと将来構想の中で建物については検討する。

【問】将来地域活力の源となる子どもの誕生に祝い金を出すことは全市民が喜びを共有することと同義と考え再度出産祝金制度の制定について伺う。一層の子育て支援策の充実を望む。また、商店街空店舗の有効利用、賑い創出も兼ねて親が仕事帰りに迎えに来るまで安全で安心な子どもの居場所づくりを商店街に設置することを提案するが、当局の考えは。

【答】出産祝金制度については合併協議時に創出しないう方向で議論された。むしろ養育支援の充実を図る考えだが再度検討する。空店舗利用は新しい考え方。市では現在学童保育で居場所は確保しているが商店街と協議したい。

質問

回答

# 補助が半分は本当か

## 下らないよう県に要望



三浦 克昭 議員  
(新 創 会)

拡大については、他市町村の事例等も参考に検討したい。炭焼に関心のある人も大野台に設置はいつか。

### 職員の市民へのマナー

#### 機会あるごとに徹底

市職員にあいさつやマナーをどう指導しているのか。

私(市長)にはあいさつを返してくれるが、市民への対応にも機会あることに徹底させたい。部署単位での朝礼も実施予定。

出身地以外の事業や行事に來ても仕事が終わるとすぐ帰ってしまう。もつと他地域を理解しようという市職員の姿勢がほしいがどんな対応しているのか。

職員には時間外勤務を出来るだけしないよう指導している。職員交流もしており、徐々に浸透して來ていると認識している。

これまでの地域との関係

ともあり木酢液の活用などを含め検討したい。

企業誘致にも新病院の遠隔医療に対処するために光ケーブルが必要と思うが大野台に設置はいつか。

補助事業がないので、過疎債、特別債などの活用も考えているが、光ケーブル以外の方法も考えている。

部の小売店で市のゴミ袋が不足し、市民が困っている。7月には入札して作製するとの市長答弁が実行されないのはなぜか。

指定ゴミの作製については、早急にデザインの募集を行い、複数の業者に発注し作製する。もつと早くデザインを決めて体制を整えておくべきだったとの指摘に対しては十分職員に注意しておきました。



黒澤 芳彦 議員  
(新 創 会)

質問

回答

# ゴミ袋の作製を早急に

## 一月に入札で作製を

で、搬入についても独自でできるか相談したが、赤字になるのでできないとの回答があった。ゆえに他地区と同じく市の直営の形でやることになった。決して強制的に活動を中止させた訳でない。

なぜ、平成6年や7年作製したテレホンカード116万円が在庫となり、一部が目的外使用となった経緯について、管理体制を問

公共整備については、必要度、緊急度、将来的展望、財政力等総合的に判断する必要はあるが、松栄く北欧の杜線、新田目く下杉線は。

新田目下杉線は、旧合川時代からつくるといふことで進められてきたし、経済的交流、文化の交流、観

カード作製後、携帯電話の急激な普及などからカードの利用が激減。PR用としての活用は役割を終えたものと捉え、有効活用のため、N.T.T.の通話料として充たさせたい。

市長の市職員の職務姿勢に対する基本的スタンスは。

市職員は公僕という言葉がびつたりで、先走りすることなく、ピシッと公平に市民サービスをするのが一番根本である。職員の資質を出せるような環境づくりが大事であると思つている。

光の交流として必要な道路であると認識しているが、さらに検証してみたい。

松栄北欧の杜線は、北欧の杜公園や大館能代空港へのアクセス路線であり、重要な。さらに市民病院などのインフラ整備により車両の往來も増加する。

### 市の道路整備について

#### 必要度等含め再度検証

必要度、緊急度、将来的展望、財政力等総合的に判断する必要はあるが、松栄く北欧の杜線、新田目く下杉線は。

新田目下杉線は、旧合川時代からつくるといふことで進められてきたし、経済的交流、文化の交流、観

カード作製後、携帯電話の急激な普及などからカードの利用が激減。PR用としての活用は役割を終えたものと捉え、有効活用のため、N.T.T.の通話料として充たさせたい。

市長の市職員の職務姿勢に対する基本的スタンスは。

市職員は公僕という言葉がびつたりで、先走りすることなく、ピシッと公平に市民サービスをするのが一番根本である。職員の資質を出せるような環境づくりが大事であると思つている。

質問	回答
<h2>各税、使用料の徴収対策は</h2> <h3>11項目で努力している</h3>	



議員 吉田 嘉隆 (形成会)

**問** 各税及び使用料等の滞納について、徴収には今までのような努力が必要と思うが、どのような対策を講じてきたか。また、専従職員

の配置によって、収納率の向上が図られると思うが考えは。

**答** 税の滞納については、11項目を設けて努力していますが、北秋田地域振興局と一緒に徴収に向けて行動し収納率を上げることができ、今後も県と一緒に徴収運動を進めたい。専従職員の配置については、機構改革等を19年度に向けて進めており、徴収は市が動いていく上で一番大事なことです。十分考えていきたい。

今後は、いじめは人として絶対に許されない卑怯な行為だということの指導。子どもが出すサインを見逃さない。学校、先生は、最後まで絶対に守り通すという姿勢を示す。相談活動の充実を図るなど徹底します。

**問** いじめによる自殺が全国で相次いでいる。先般の調査結果で先生に相談することが意外に少なかったように思う。先生と児童・生徒の信頼関係についての考えは。

また、いじめを起こさせないために、今後どのような対策を考えているのか。  
**答** いじめについては、身を十分分析しなければならぬと思います。調査で中学校は親よりも教師に相談したという方が多かったです。

## 消防団員の定員割れは 充足にむけて頑張る

**問** 消防団員の定数割れは、速やかに解決すべきと思うが考えは。

常備消防も、定数割れをどうとらえ、どのような対策を考えているか。  
**答** 消防団員は、充足率で見ると87%です。常備消防

がしつかりしているところは、定数少なくて済むという状況にあります。常備消防も十分ではありません。できれば定数、充足に向けて頑張りたいと思います。

質問	回答
<h2>新病院は市財政を圧迫</h2> <h3>圧迫はしないと考える</h3>	



議員 板垣 淳 (共産党議員団)

**問** 市長は「新病院ができればよそに行かなくてもよくなる」と言うが、新病院

ができたとしても現在との比較で、ベッド数は減少、外来も横ばい。なぜそのように言えるのか。  
**答** 入院日数が短くなるのでよそに行かなくてもよくなる。

**問** 「新病院の特色はガン治療。そのためにFUS（ファス）を導入する」というが、その機械で治療できるのはどのガンか。  
**答** 乳ガン。ほかに子宮筋腫と前立腺肥大症に効く。  
**問** 多くある肺ガン、胃ガン、大腸ガンなどには効かない。それで大みえきって「この病院の特色はガン

治療です」と言えるか。  
**答** 医療機械でそれらに効くものはない。  
**問** すでに財政難にもおちいつている北秋田市が今後、建設費約88億円のほか関連

事業などで多額の投資をすることになる。これでは市の財政は持たない。第2の夕張市にならないためにも再検討を。  
**答** 財政は圧迫しない。  
**問** 圧迫はしないと一言で片付けたが、納得できない。  
**答** 心配はわかるが、私は「基本構想」に従って進めている。その構想は議会に了解してもらったものだ。

## 小学校統合の意見聴取を 成案ができてから

**問** いじめ、不登校の大きな原因は、競争教育によるストレス。文科省はそれをさらに助長させることになる全国一斉学力テストを4月に実施し、学校ランキングをつけて公表しようとしている。かつて競争と格差がおき弊害が多いとして文部省みずから取りやめたテスト。いわば「試されずみ

の失敗作」。当市においては実施するべきではないと考えるが。  
**答** 実施することに異論はない。  
**問** 小学校統合について。

市民は統合に賛成の人が多いか、反対の人が多いか、をどう認識しているか。  
**答** 全く予測できない。  
**問** 私がおこなった調査では賛成、反対が二分している。賛否が分れているのに一方的に統合を進めるといふ市のやり方はまずい。住民の声を聞くというのは民主政治の基本。まずは住民に説明し、意見を聞いてほしい。  
**答** 今は物理的に難しい。統合検討委員会が成案を作るのでそれをもって19年度に住民説明会をおこなう。

質問	回答
(仮)市立病院建設について	厚生連に4億4千万円程負担してもらおう



議員 一 澤 米 (会 光 千)

**問** 岸部市長が町長に立候補した時、北秋中央病院は現在地にと公約した。

厚生連から11項目の要望書がきている。厚生連では11項目の要望についてはまだ話が結論を得ていないと言っている。11項目の要望書への回答はどうか。

厚生連に企業債の利息5864万6千円、減価償却相当額3億7545万5千円という数字を厚生連に出しているか。

厚生連に出した準備協定書は議会の承認を得る必要がある。協定書を結んだ法的根拠はどこにあるか。

北秋病院敷地は鷹巣町農協が提供していると聞かす今回の敷地の処分について

は鷹巣町農協へ声をかけるのが道義的と思うがどうか。

**答** 11項目の要望書は指定管理者制度をわからない段階の質問書であった。減価償却相当額等については厚生連に出してある。

### 伴補償支援カットは合併のマイナスだ

### 平成19年度に検討する

**問** 減反政策に対して、減反の補償金を市が負担しないとなっているが、農家全体がよい経営ができるように支援するのが当然で、今回支援がカットされるとなれば合併のマイナス効果だ。支援を続けるべき。

**答** 鷹巣町農協には伴補償という形で名称が残るかどうか。それは無くなる方がいいと思っている。協議を進めて平成19年度に向けて協議していく。



質問	回答
北秋田市の活性化は雇用環境整備に努める	



議員 憲 隆 石 (会 成 形)

**問** 北秋田市の活性化は、人づくり、仕事づくりにあると思う。第一に人づくりです。民間活力の乏しい我が市では、行政における人づくりが最も重要である。

市民の多様なニーズに素早く対応できる市の将来を切り開くリーダー的人材をまづ行政から育成すべきと思うが、第二は仕事づくりにある。景気は依然低迷している。地元就職を希望しても職がないといった今日。新卒者は魅力ある職場を求めて流出しなければならぬ現状にあり、高齢化率が上昇し活力が失われる要因の一つと思われるが若者の仕事場確保は。

**答** 立派な学力を付けさせ

経験を積む機会を与え、能力を発揮する場を作るのが、行政の仕事。人材育成雇用環境の整備などに努める。

**問** 若者に魅力ある産業振興策は。

**答** 来春森吉地区で始まる養豚業では、二次加工も地元でできるような業者に掛け合っている。男子型企業の誘致にも取り組みたい。

**問** 地域資源を活用した、

### いじめの未然防止策は

### 現場と教委密接に連携

**問** いじめ実態調査を踏まえた未然防止策は。

**答** すべての大人の見守りが大事だと考えている。来年2月にもういちど調査し変化を分析する。19年度は3回にわたり調査した上で教職員の力量向上を図るほか、いじめの中で冷やかしか、やらかいが多いため言語環境を整える。気になる言

葉を見逃さず、教職員や児童生徒、家庭を巻き込んで取り組みたい。

問 答

昇級凍結を考えられないか

手当縮減に取り組んでいる



議員 松田 光朗 (無会派)

年間25%、およそ58億円である。同じ悩みを抱える全国の例を見習い、地域経済を考えて、3年〜5年位の昇級凍結などを考えられないか。

**問** 職員給与は、中央官庁と同一給料表が適用されており、地元企業との格差が広がっている。市は合併により、職員数が臨時職員と合計で900人以上となっており、給与も一般会計で

**答** 給与構造改革を進めており、各年代層ごと、全体で約5%減の状況である。19年度予算編成においても各手当の縮減に取り組んでいる。いずれは職員数を減らす努力もしたい。

合併協事業の見直しを

検討して進めたい

**問** 合併後1年8ヶ月、市財政は危機的状況を改善する目処も立たない中にある。合併協議会で、旧町から引き継いだ事業計画案を承認して進めているが、投資効果に疑問を持たざるを得ない事業もあり、財政事情もふまえた上で、施行年度の見直し等も必要ではないか。

**答** 新市まちづくり計画があるが、交付税、補助金の減額等により、途中で中止になった事業も出てきているので、計画にこだわらず検討して進めたい。  
**問** 何処の集落に行っても放置された空き家が目立つ。市営住宅建設も必要であるが、放置されている住宅

を月額1万円〜2万円くらいで貸し付けをする方法はないか。

**答** すぐ出来ることなので来年度に向けて、※PFIを利用したプロポーザル事業として、民間に広告したい。

**問** 北秋田市が誕生し、国体、全国植樹祭などで全国から人が集まる。この機会に大館能代空港を北秋田空港にするのが望ましいが、変更には莫大な費用がかかること。せめて通称が北秋田空港に定着するようにパンフレット等で運動するべきである。その結果として、観光、企業誘致等など将来展望が開けると思うが。

**答** 大館能代空港利用促進協議会で提案した時も現在も難しいという状況は変わっていない。しかしその状況の中にあっても、国体、植樹祭はチャンスなので、北秋田空港に向けての努力をしたい。

\*PFI…公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法

決算特別委員会

17年度各会計決算認定3件が本委員会に付託され、会計別に分類すると、一般会計1件、特別会計19件、企業会計2件、総額419億円、特別委員は8名。11月13日より22日まで実質審査は6日間であり、決算各種補助資料を活用し審査した。委員会は原則公開とする。①審査のポイントは予算が適正に執行されたか。②財源の確保は適正か。③各種事業等検証して行政効果、経済効果を評価し無駄はなかったか。④審査の結果を次年度予算編成や執行

に生かす等。審査にあたっては代表監査員に実務監査にあつた実態を一般会計、特別会計、企業会計について意見を求め、審査の議論を踏まえ、審査最終日には市長に対して総括質疑を認定不認定の判断に資した。慎重に精査の結果、平成17年度各会計については、支出に関して事前執行にあたるのではないかと「反対討論」があつたが採択の結果賛成多数で認定と決定した。企業会計2件については全会一致で認定と決定したが、意見を付すことにした。審査では、様々な質疑、提言がなされたが当局の次年度の行政に注目したいと

思う。

(泉 一雄委員長)



▲ 決算審査の様子

決算認定に対する意見

- 税の未納・滞納及び学校給食費、利用料、使用料を含め徴収に努力すべき。
- 翌年度繰上充用金を充てている会計の是正を図りたい。
- 農業集落排水事業の計画地域及び未計画地域の早期実現に努力されたい。
- 下水道事業の見直しで農業集落排水事業の推進を図りたい。
- 財産区会計の会計方法と交際費及び報酬の統一化を図りたい。
- 阿仁地区への医療機関を存続すべき。

# 委員会 調査レポート



## 総務企画常任委員会

調査日 平成18年10月23～25日  
調査先 寝屋川市・岸和田市

### 意識改革へ 行政—360度評価

当委員会では市の行政課題の一つであります、市民主体の行政運営の推進と市民参加のまちづくりシステムについて、先進地であります大阪府寝屋川市と岸和田市を調査地と選定しました。

まず寝屋川市では、行政評価制度と360度人事評価について調査。人口は25万人の住宅都市として発展、しかし厳しい行財政環境のもと市民ニーズの高度化、多様化が一層求められていました。

このような中で平成11年4月自治経営室を設立し、室長を民間公募し、行政評価に民間のシンクタンクの力を活用する手法を導入、平成12年「簡素で効率的な行財政システムの構築」「市民参加の推進と行政の公正、透明性の向上」を基本目標とする10ヵ年計画の行財政改革大綱を策定。平成15年までの4年間で職員数は2229人から1914人へと14・1%削減、人件費の圧縮や事務事業の見直し等により財政的効果は約78億に

上ると試算をしております。

平成16年からの第2期行財政改革では、公募型補助金制度を創設することで補助金の効果がどれだけ市民に波及しているのかを判断する制度や、みんなのまち条例による「市民の協働」の推進にも取り組んでおります。

行政評価制度と連動しているのが360度人事評価制度の導入でありました。職員には経営感覚やコスト意識を持つことや意欲的かつ自発的に行財政の見直しをすることな



▲ 寝屋川市にて

ど意識改革を図る必要があると判断してまいりました。

具体的な導入の目的は①頑張れば報われる職場環境づくり②人事評価に対する公平公正の向上③管理職員の資質の向上等でありました。対象者は部長から課長補佐までの174人であり、評価する人は上司、同僚者、部下であります。評価結果により昇任昇格や6月、12月のボーナスにおける勤勉手当に反映させる制度（五段階で年間24・7万円の格差）でありました。

いずれも職員の意識改革のツールとして非常に有効であり合わせて市民の目（意識）もまた大切であると思われま

### 市民参加へ 自治基本条例制定

岸和田市では平成13年都市計画マスタープランを策定。

平成14年市制施行80周年を迎え新たに「特例市」としてのスタートをすることで、府の事務がより多く岸和田市の責任で行なうこととなり、市の果たすべき役割は確実に大きくなりました。

そこで市民が市政に参画す



▲ 岸和田市にて

基本的な考えや情報の共有、協働のルールを独自に定めて、共通の指針とするための条例が必要となりました。もともと昭和55年、平成12年までは市民協議会が各小学校ごとに設置されており、この活動をいかに熟度を高めていくのが行政の責任と考えていた。

そこで市民を信用し行政がコンセプトを示して市民が、一から条例案作りを行なう方法を採用。自治基本条例策定委員会を設立、3年間無償で活動し、平成17年8月1日市民自治都市を実現するための基本条例が施行されました。

我が市にとっても、行政と市民が協働するシステムをどう構築するのか、両市の研修は意義深いものがありました。

（執筆者：佐藤文信）

# 委員会

## 調査レポート



### 生活環境常任委員会

調査日 平成18年10月25～28日

調査先 鯖江市・敦賀市

## 環境整備で

## 市民の意識高揚

福井県は総務省発表の「統計で見る都道府県の姿2006」の都道府県別豊かさランキングで5年連続1位となった県である。

特に▽共働きの割合が高く年間世帯収入が1位で、繊維、メガネ、漆器等の地場産業が盛ん▽失業の低さ、自動車保有率、貯蓄残高などが各1位、家の面積は2位、長寿率は2位▽出生率は日本の中で福井県のみが伸びているなど他県がうらやむ状況となっている。以上の理由で福井県を選び、その中からとくにゴミ問題と病院について調査しました。

### 鯖江市について

(1)市の人口は、平成12年から平成18年まで、毎年6000人程人口増加になっており、本年4月1日の人口は6万8千人である。

(2)ゴミのリサイクルは小・中12校のうち5校で生ゴミの堆肥を作って活用している。

(3)環境アドバイザー32名が登録され、生活、都市、自然地球の各分野で市民の環境意

識を高め、地域の環境保全活動の推進を図っている。

(4)カラス対策のゴミ袋は1月から使用する予定である。

(5)地場産業が盛んなので共働きが多く、それを支えるために祖父母の役割が大きく、地域には孫達と祖父母が一緒に過ごせる施設がある。

(6)地域にある自治会館に体育館が併設されており、スポーツなどを通じたコミュニケーションが図られている。

## 病院経営は厳しく

### 敦賀市立病院について

(1)市の人口は平成12年から平成18年まで、毎年1500人ほど人口増加になっており、本年4月の人口は6万9千人である。

(2)福井大学の医学部と県が中心になって医師確保に取り組んでいるが、常勤医師の不足が悩みの種となっている。しかし市の開業医は相当多いようでした。医師確保には県も年々取り組みを強化しているとのことですが、医師不足は解消されていないのが現状でした。

(3)高度医療機器としてリニアック（放射線による悪性腫瘍等治療装置）と、CT装置（全身用X線断面撮影装置64列）が設置されていました。

(4)17年度決算で2億4500万円の欠損処理をしている。

(5)第三次整備事業を平成15年から4カ年継続事業で、増改築の事業が完成しておりました。財源は、原発があることから電源三法による寄付金

が大きなウエイトをしめておりました。

(6)経営改善については、中



▲ リニアックの説明を受ける

核的な医療機関として引き続きその役割を發揮していくには常勤医師の確保はもちろんのこと、これまで以上に経営環境の改善等を強固に推進していくことが必要と考えている。

(7)病床数は350床。

17年度の患者数は、入院で8万8872人（一日平均243・4人）、外来が18万1609人（一日平均774・2人）で、常勤医師の減員により前年度に比べ入院延べ患者数は170人（16・1%）、外来延べ患者数は2万9630人（14%）と大幅な減少になっているとのことであった。

（執筆者：佐藤重光）

▲ 鯖江市にて



# 委員会 調査レポート



## 福祉教育常任委員会

調査日 平成18年11月7～9日  
調査先 大阪市・京都市

### 障がい者の就労に向けた 取り組みについて

大阪市、京都市にて障がい（児）者福祉に関する法人の取り組みと現場の状況を調査した。初日7日は、大阪市障害者福祉スポーツ協会が立ち上げた障がい者の就労が可能になる指導訓練の法人「大阪市障害者就業・生活支援センター」での調査でした。ここは大阪市内に6カ所の支援センターが配置されていた。

センターの事業内容から、障がい者の職業生活する上で自立を図るために雇用・保健・教育など地域の関係機関と連携をとり、より身近な地域で就労及び生活ができるよう一体的支援を行なうとのこと。平成14年の障害者雇用促進法改正により実施されたものでした。

訓練期間は、6カ月を基本とし就労を目指すとしているが、本人に合った企業にむすびつけるまで訓練を重ねる場合もあるとのこと。就労に至っては、一連のネットワークの中で運営されていた。特に事業主の理解と参画は学べ

き部分と思えた。最近の状況では事務的就労を目指す方が多いとのことであった。

障がいは、言うまでもなく精神・身体・知的の三障がいだが、障がいに関係なく、パソコンを使う業務の希望が多いとのことでした。

遅い時間にセンターに到着したため訓練指導を受ける場面は確認できなかったが、施設内の訓練室を把握できた。パソコン実習室、プリンターのトナー詰め替え室、電子部品の組み立て室などが整備さ



▲ 支援センターで調査

れ、ユニークなものとして野菜の水耕栽培など都市の中でも行なえる工夫やアイデアが生かされていた。各種設備や機能、精神的配慮など職員の情熱が伝わってきた。

8日の午前は、センターで指導訓練終了した人たちが就労している「あしすと阪急」に出向く。阪急電鉄のグループ会社で2005年設立。社員数が1万人。会社と連携し、140人ほどの障がいをもたれた方達が就労されている。

主に清掃業務で、時給810円の8時間労働で20日以上は働き、各種保険制度も適用され、安心の就労条件と思えた。センターでの訓練が業務の流れをスムーズにみちびいていた。当初、会社側も心配したが、今ではとても助かるとのことであった。

### 障害幼児の療育と 子育て支援について

京都市に4施設あるうちの西京区内の洛西愛育園。ここは、自閉症やダウン症など様々な何等かの障がいをもつ幼児の通園施設で、定員42名に相互枠4名の46名の療育やここの卒園者や学童児のデイ



▲ 個々にあわせたイス

サービスも運営していた。職員は園長を含め15名で、2才5才までの幼児は、リクライニングなど個々に合うイスを取りつけた通院バスで送迎されていた。当然、保育室内の机やイスも個々にあわせ、スタッフの手で造られていた。施設の隣には福祉短大もあり、専門学校の生徒も含め実習現場にもなっている施設であった。自立支援法改正に伴って利用者負担や市による独自の軽減措置など運営上の大変さも話されていた。就学へ向けての明るいステップが感じられ、今後の北秋田市の取り組みへの参考となった。

（執筆者：中嶋力蔵）

# 委員会

## 調査レポート



### 産業建設常任委員会

調査日 平成18年11月27～30日

調査先 京都市・神戸市

## 林業振興は 再生産意識に夢を持って

林業振興についての調査地を京都市北山林業地としたのは、本県における秋田杉と共に、日本古来の木造建築には歴史的にも茶室や日本間の引き立て役として欠かすことのできない伝統的な木材の産地であることから、近年の木材価格低迷における産地の動向を直接現地へ赴き調査することこそ必要と判断した。

まず、京都林務事務所において、林業振興についての取り組みと概要について説明を受け、第一に観光地として有名な京都市も山が全体の60%以上の正に自然と協和を指す大観光地であることを改めて再認識した。更に北山杉の生産から流通までを調査するため、北山林業地の中心にある林産会社に赴き調査した。

林業振興についての調査地を京都市北山林業地としたのは、本県における秋田杉と共に、日本古来の木造建築には歴史的にも茶室や日本間の引き立て役として欠かすことのできない伝統的な木材の産地であることから、近年の木材価格低迷における産地の動向を直接現地へ赴き調査することこそ必要と判断した。



▲ しぼり丸太の説明を受ける

## 商店街の活性化は、 ヤル気が原点

商店街の活性化対策については、「神戸市商店街、小売市場による地域力アップ事業」の取り組みについて調査しました。その取り組みの特徴と効果について、効果的なまちづくり活動を展開する上で、他地域でも参考モデルとなるような知恵や工夫を行って創る点、歴史は在るものではなく創るものです。過去から現在に至る時間の経緯は唯それだけでは歴史ではありません。

現在に内在する過去を歴史的遺産として認識し自覚することの中で、はじめて時間の経過は歴史に生まれ変わるのです。元町商店街は過去に遡ると西国街道沿いに誕生した集落です。当時の兵庫県知事より元町通と名づけられて、名実共に元町商店街は誕生しました。以来、今日に至る膨大な時の流れは現在の元町商店街に脈々と流れ込んでいます。その膨大な時の流れを歴史として再認識することは極めて重要です。元町商店街の歴史を写した懐古写真は貴重な資料となりました、と強調された



▲ 元町一番街振興組合にて

ことに調査の原点があったように感じました。

商店街の問題は商店街自らによって、考え見出し出して行くべきであるという強い思いが根底にハッキリと見えた。更には苦難を乗り越え、立ち向うヤル気があるか、そこが問題であるとも強調された。またこの商店街振興会の「モットー」はお客様との絆を大切にすること。自らのヤル気こそが総ての原点であること。将来のために苦しい時や繁盛の時の記録資料を残すこと。常に知恵は自分で見出すもの、大変な状況こそが「起死回生」のきっかけになる等多くの教訓を教えられた所管事務調査であったことを報告致します。

(執筆者：武藤忠孝)

# みなさんからの 請願・陳情

## 採択

▼秋田県の医師不足を解消し、地域医療の確保を求める陳情書  
提出者 秋田県医療労働組合連合会  
執行委員長 中村秀也

▼「格差社会」を是正し、いのちと暮らしを守るために庶民増税の中止を求める陳情書  
提出者 秋田県社会保障推進協議会  
会長 渡部 淳

▼「格差社会」を是正し、いのちと暮らしを守るために社会保障の拡充を求める陳情書  
提出者 秋田県社会保障推進協議会  
会長 渡部 淳

▼療養病床の廃止・削減と患者負担増の中等を求める陳情書  
提出者 秋田県社会保障推進協議会  
会長 渡部 淳

▼森林・林業・木材関連産業政策と国有林野事業の健全化を求める陳情書  
提出者 秋田県「森林・

林業・林産業活性化推進議員連盟連絡協議会」  
会長 津谷永光

▼米価下落に影響を及ぼす低品位米と政府備蓄米の流通見直しを求める陳情書  
提出者 生き物共生農業を進める会  
代表 今野茂樹

▼公共工事における建設労働者の適正な労働条件の確保に関する陳情書  
提出者 秋田建築労働組合  
組合長 伊藤和雄  
他1団体

## 不採択

▼『平成18年第5回北秋田市議会において「名称の決まっていない」と市長答弁のあった病院」の名称についての陳情書  
提出者 薄井徳幸

▼『平成18年第5回北秋田市議会において「名称の決まっていない」と市長答弁のあった病院」の診療科数についての陳情書  
提出者 薄井徳幸

▼『平成18年第5回北秋田市議会において「名称の決まっていない」と市長答弁のあった病院」の鷹巣地区外来セン

ターの実施決定についての陳情書  
提出者 薄井徳幸

## 継続審査

▼市道阿仁前田停車場線（小又地区）拡幅改良事業の早期着工に関する請願書  
提出者 小又自治会  
会長 宮野徳治  
他3団体

▼「阿仁・森吉」スキー場の継続と早期営業決定についての陳情書  
提出者 森吉山通年観光対策協議会会長  
北秋田市長 岸部 陸

# 意見書

▼「格差社会」を是正し、いのちと暮らしを守るために庶民増税の中止を求める意見書  
提出者 森吉山通年観光対策協議会会長  
北秋田市長 岸部 陸

▼「格差社会」を是正し、いのちと暮らしを守るために社会保障の拡充を求める意見書  
提出者 森吉山通年観光対策協議会会長  
北秋田市長 岸部 陸

▼公共工事における建設労働者の適正な労働条件の確保に関する意見書  
提出者 森吉山通年観光対策協議会会長  
北秋田市長 岸部 陸

▼秋田県の医師不足を解消し、地域医療の確保を求める意見書  
提出者 森吉山通年観光対策協議会会長  
北秋田市長 岸部 陸

者負担増の中等を求める意見書  
提出者 森吉山通年観光対策協議会会長  
北秋田市長 岸部 陸

▼森林・林業・木材関連産業政策と国有林野事業の健全化を求める意見書  
提出者 森吉山通年観光対策協議会会長  
北秋田市長 岸部 陸

▼米価下落に影響を及ぼす低品位米と政府備蓄米の流通見直しを求める意見書  
提出者 森吉山通年観光対策協議会会長  
北秋田市長 岸部 陸

（提出先）  
内閣総理大臣 他  
関係各機関

# 人事案件

任期満了に伴う人権擁護委員の推薦に伴う同意案件が提案され、同意することに決定しました。同意された委員は次のとおりです。  
中嶋 眞知子 氏（再任）  
住吉町

# お知らせ

## 議会を傍聴してみませんか！

次の3月定例会（3月中旬予定）は、委員会の開催場所も市役所本庁舎になります。

# あとがき

去年は「命」「絆」「家族」の大切さが社会全体にメッセージとして出された年でした。子どもたちの明るい笑顔とはしゃぎ回る姿があっちにもこっちにも目にする地域でありたいものです。

それには、家族や近所同士「おはよう！」の声かけや家族の地域活動への参加が子どもたちに安心して遊べる環境づくりのきっかけになるかもしれないですね。

議会だよりの編集にあたっては、誰でも「読みやすく親しみやすい」を心がけ、和やかなチームワークで進めています。

皆さんのご意見、ご感想をお気軽にお聞かせ下さい。  
（小塚光子）

